

文化理解とコミュニケーション能力向上のためのスペイン語教育の試み

プロジェクトメンバー：大森洋子(研究代表)、原田勝広、大森洋子(報告執筆)

このプロジェクトでは、スペイン語初学者が実際にSkpeを使って指導者と会話をしながら学習を補強するとともに、内容をラテンアメリカ、グアテマラの文化にスポットをあてたコースに学習者を参加させ、学習動機を維持させるとともに文化理解の補強をはかるのである。

受講者 21名(内訳 社会学部 1名 法学部 3名 国際学部 15名 心理学部 2名)

受講開始：6月13日より毎週1回12回

1回50分の授業を12回重ねることにより、回をおうごとに学習者がどのように変化していくかを今年度は学習者と会話をしている実際の講師からの聞き取り調査、報告書から分析することを目的とした。(1年目は学習者からのアンケートを主にまとめた。)

学習者にとっては、自分のレベルに合わせた会話をを行い、教材を授業で使っているものに準拠して作っているためにAula virtualよりも受講希望者が多い傾向を示していた。しかしながら、残念ながら様々な運営上の問題があることも否めず、今後は問題解決のための策を考えた上で、新たな試みを模索する必要があると考える。

まず第1に、提携して授業提供をお願いしているスパニッシモの対応が非常に遅く、学生への対応、準備等に手間取ったことは否めない。人数の確定、それぞれの学生の担当教員、時間配分などが難しかったことが挙げられる。2年目に入り、教員との交流もとりながら受講プランすすめる学習の効果をはかる予定であったが、受講後の今の段階でも報告書は届かず、今後の学習の継続には課題が残る形となった。

第2に、スパニッシモがグアテマラを拠点に展開しているため、まず時差の問題が生じた。学生が学習したいと意欲がありながら、時間が合わないなどの問題があった。12回の授業を行うのに、毎回同じ時間に合わせてパソコンの前に座るとするのは今の学生のライフスタイルではむしろかしく、学校単位で実施をすると時間帯が決定されるために時間が合わないなどの問題で受講率が7割程度にとどまっている。さらに、グアテマラのインターネット接続状況とも関係し、接続状態が悪いために授業が行われないことも多くあり、これらの点も加味したかたちでコース設計する必要があることが明らかになった。

学習者にとっては、直にラテンアメリカ事情をしる良いきっかけになる企画であるが、今後はこのような問題をクリアーできる学校を探し、学習者の学習に連携をはかることができる準備をして、さらに試みを発展する形で、学習者の文化的な理解と言語学習の向上のためのプログラムを考えていくことが今後の課題である。